

授業改善に向けて④ 授業改善の方策を考える ～全教職員の協働で授業を磨く～

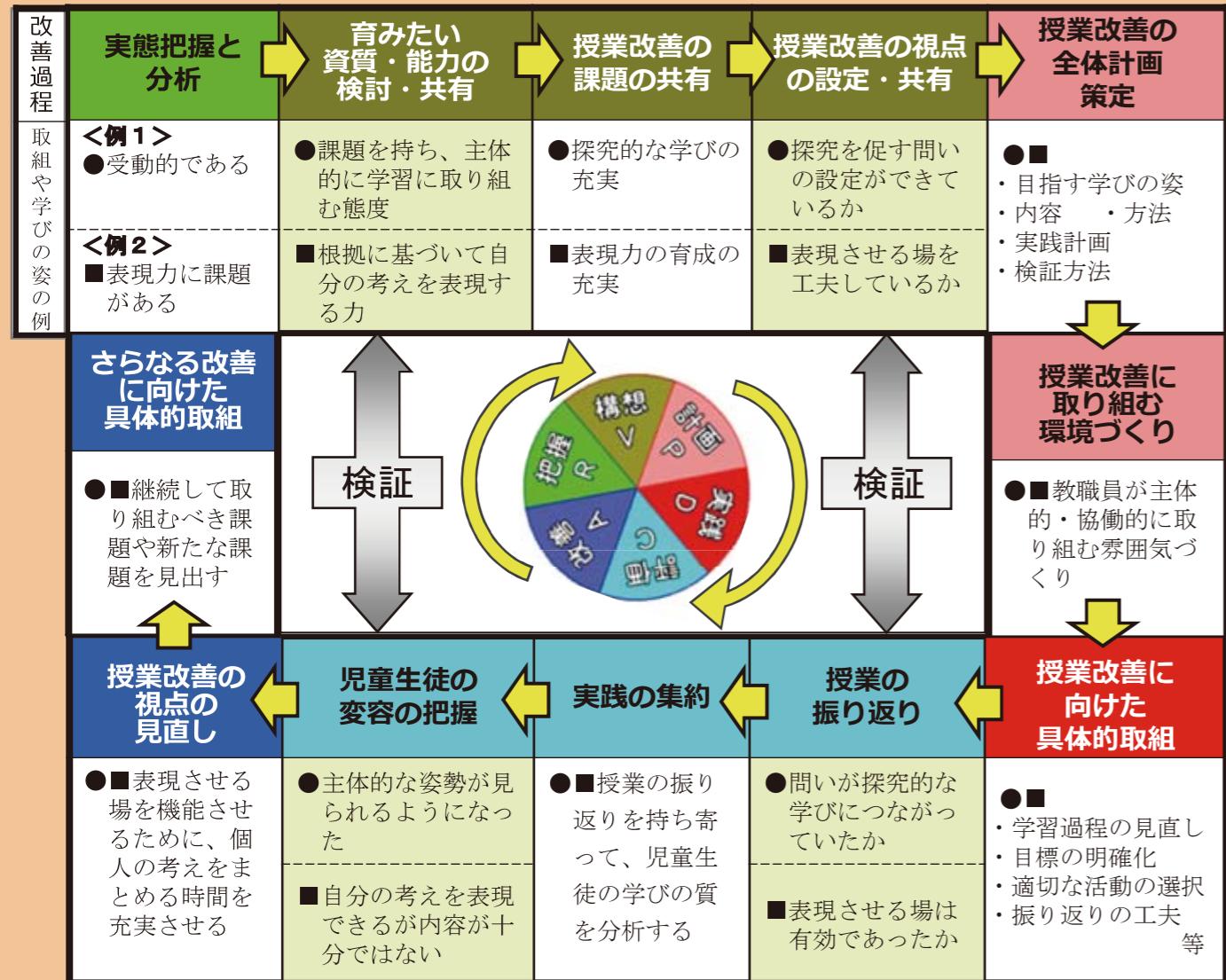
各学校では、校内研修を一層充実させ、具体的に取り組むべきことを全教職員が共有し、それぞれの教科・領域・学年等で授業改善を進めていく必要があります。

◎授業改善の取組に向けた体制づくり



◎授業改善の取組事例

(注) ●と■の印は、それぞれ順に追うことで、2通りの例を示している



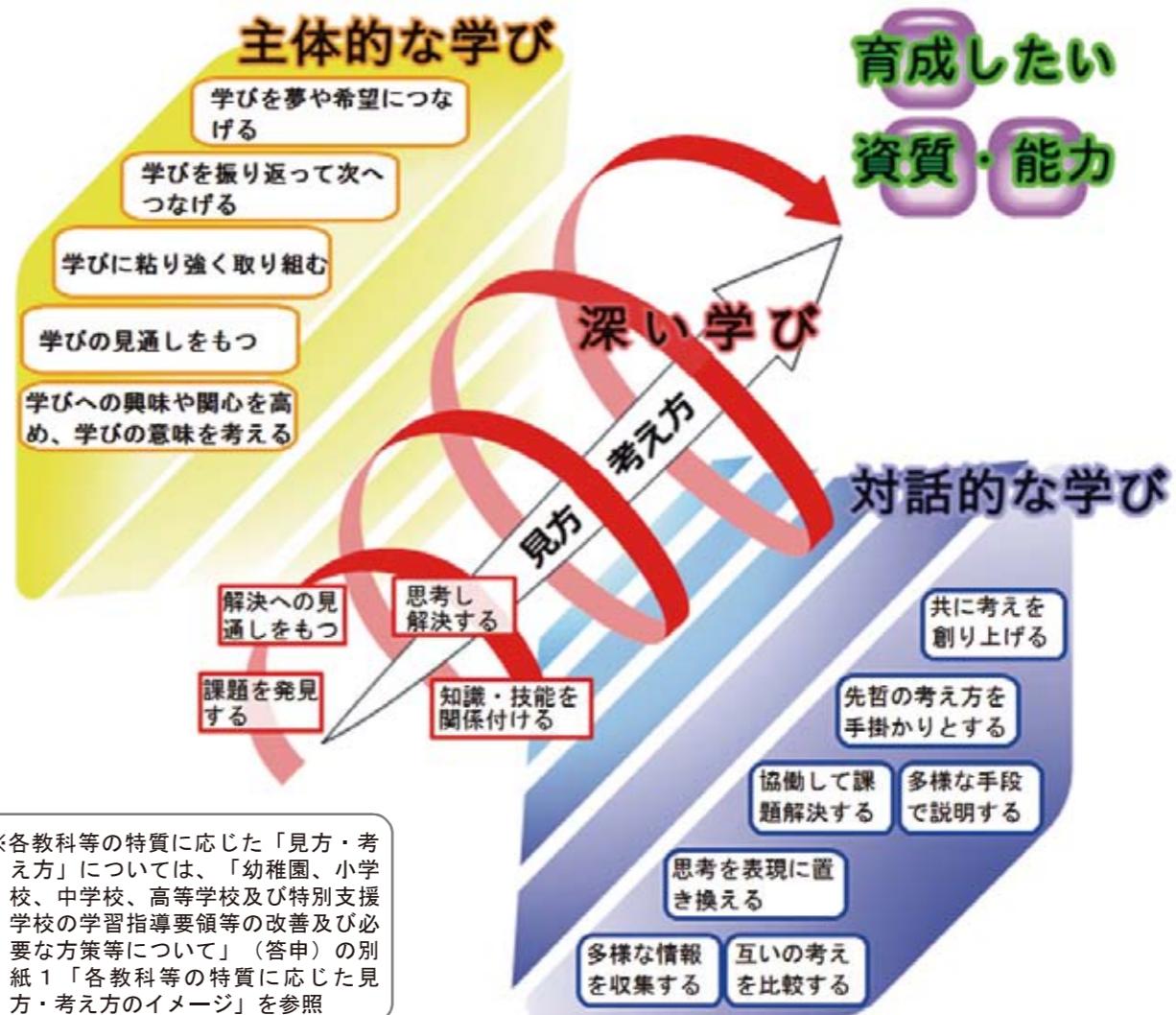
校内研修を通して、管理職、研究主任、教科担任等のそれぞれの立場に応じたRV-PDCAサイクルによる授業改善に取り組みましょう。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

～アクティブラーニングの視点を踏まえて～

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とは、指導方法の改善や学習形態の工夫にとどまらず、児童生徒に求められる資質・能力を育むという観点から、学びの在り方そのものを問い合わせ直す営みです。

「主体的・対話的で深い学び」を実現する学びの過程のイメージ



「主体的・対話的で深い学び」の実現には、児童生徒が各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることが必要です。

授業改善に向けて① 児童生徒にどのような資質・能力を育みたいかを考える
～ 資質・能力の三つの柱に基づいて～

資質・能力の三つの柱

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

各学校で

児童生徒が学びを通して「何ができるようになるか」という観点から、各教科等の単元や題材の中で育みたい「資質・能力」を具体的に設定しましょう。

授業改善に向けて② 教師が児童生徒の学びにどう関わるのかを考える
～ 児童生徒が「どのように学ぶか」～

これまで取り組んできた授業改善の視点(例)

- 実態把握に基づいた教材研究
- 単元全体の指導計画等の見通し
- 興味・関心を引き出す導入
- 学ぶ意味をもたせるめあて
- 思考を深める発問
- 明瞭・簡潔な指示・説明
- ねらいに応じたICT機器の活用
- ねらいに応じた対話や話し合いの工夫
- 個に応じたフィードバック(形成的評価)と支援
- 目標到達状況を把握するための評価問題
- 新たな課題を見出させる振り返り

各学校で

これまで取り組んできた授業改善の視点を生かして、「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげましょう。

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

授業改善に向けて③ これまでの多様な取組を足がかりに考える
～ 「オール長崎」で授業を創り上げる～

各学校で

これまで本県で蓄積してきた優れた実践を足がかりに、創意工夫してより一層の授業改善に取り組みましょう。

◎ 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の参考となる取組

「言語活動の充実」を目指す取組

思考力・判断力・表現力等を育成するための言語活動を位置付けた授業実践
<例>「何のために」「どのような言語活動を」「学習過程のどこに位置付ければ効果的か」という視点からの授業づくり

複式学級における取組

異年齢集団による活動や間接指導における指導方法を工夫した授業実践
<例>児童生徒が自主的に学習を進める間接指導において、協働して課題解決できるような工夫を図った授業づくり

総合的な学習の時間における取組

課題研究等における探究型の授業実践
<例>自ら課題を設定し、必要な情報を収集して課題解決に取り組む探究的な授業づくり(カリキュラム・デザイン)

特別支援教育における取組

一人一人のニーズをとらえ、自立と社会参加を支援するための授業実践
<例>生活単元学習等において、生活中にある題材を用いて実際に体験したり、その体験を基にして考えたりしながら、自己の課題を解決する授業づくり